

1/18（火）外国語教育学研究科主催 吉田 研作教授による  
学術講演会を開催しました

外国語教育・学習の目的は、時代に応じた必要性により変化することを大航海時代から現代に至るまで概観し、それに呼応する形で外国語教育学がどのように発展してきたかを明瞭にお話いただきました。外国語を学ぶ環境により、外の世界から隔絶された「Fish Bowl（金魚鉢）モデル」と、無限に広がり変化していく世界の「Open Seas（大海）」モデルに分けて、英語教育が Fish Bowl モデルから Open Seas モデルへと変化してきたことが示されました。新しいモデルでは、文脈と関係なく言語形式が「正しいかどうか」（accuracy）を問う教育から、コミュニケーションの個別場面で「適切かどうか」（acceptability, adequacy）を問う教育への転換が必要になってきます。

accuracy を求める教育では学習者の個性が隠れてしまうので、acceptability と adequacy を通じて学習者が個性を発揮できるよう導くことが大切であるということもあります。そこで重要となるのが Can-do リストですが、吉田先生は客観的尺度としてではなく、自信度を測る尺度として活用することが重要だとして指摘されました。こうした観点から考えると、評価の方法も考え直さなければならぬことがわかります。

以上より、外国語教育がなすべきことは、国家を前提とする international から国境を超えた global、さらには metaverse（universe を超えた仮想世界）へと広がりを見せるコミュニケーションを捉えることであるとのお話いただきました。広大なパースペクティブを明瞭に描写され、知的余韻を残してくれるご講演でした。